

6. 「長尺物」の場合

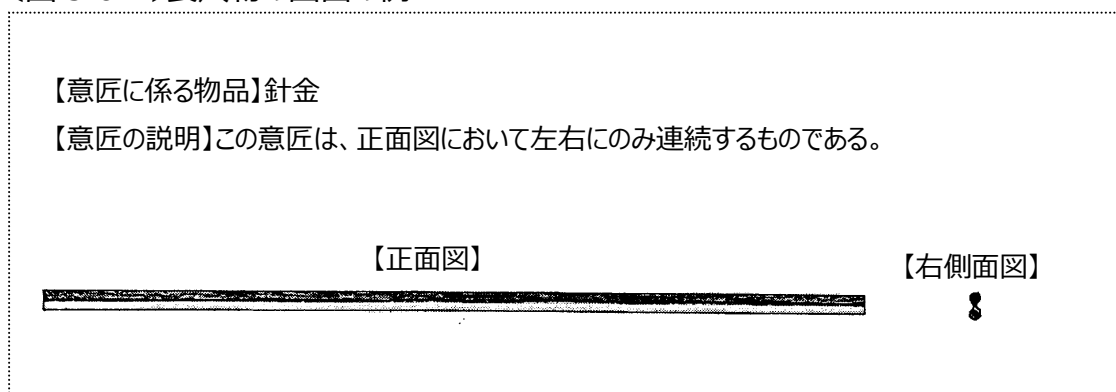
棒材、線材、板材、管材等のように、素材、部材等であって同じ形状または模様が一方方向（上下または左右方向）にのみ連続または繰り返し連続するもの（以下「長尺物」と言う）を表す場合は、その「連続する状態が明らかにわかる部分」だけについて作図します（様式6備考13）。これは、これらの物品が単に長尺に製造され使用時に端部加工される素材、部材であり、長さの程度や端部形状を意匠の要旨認定上不問とすることができる特殊な物品だからです。したがって、端部加工の施されたものは、これに該当しません。

なお、「連続する状態が明らかにわかる部分」は、単に連続する場合と繰り返し連続する場合とは異なりますので、以下のように表します。

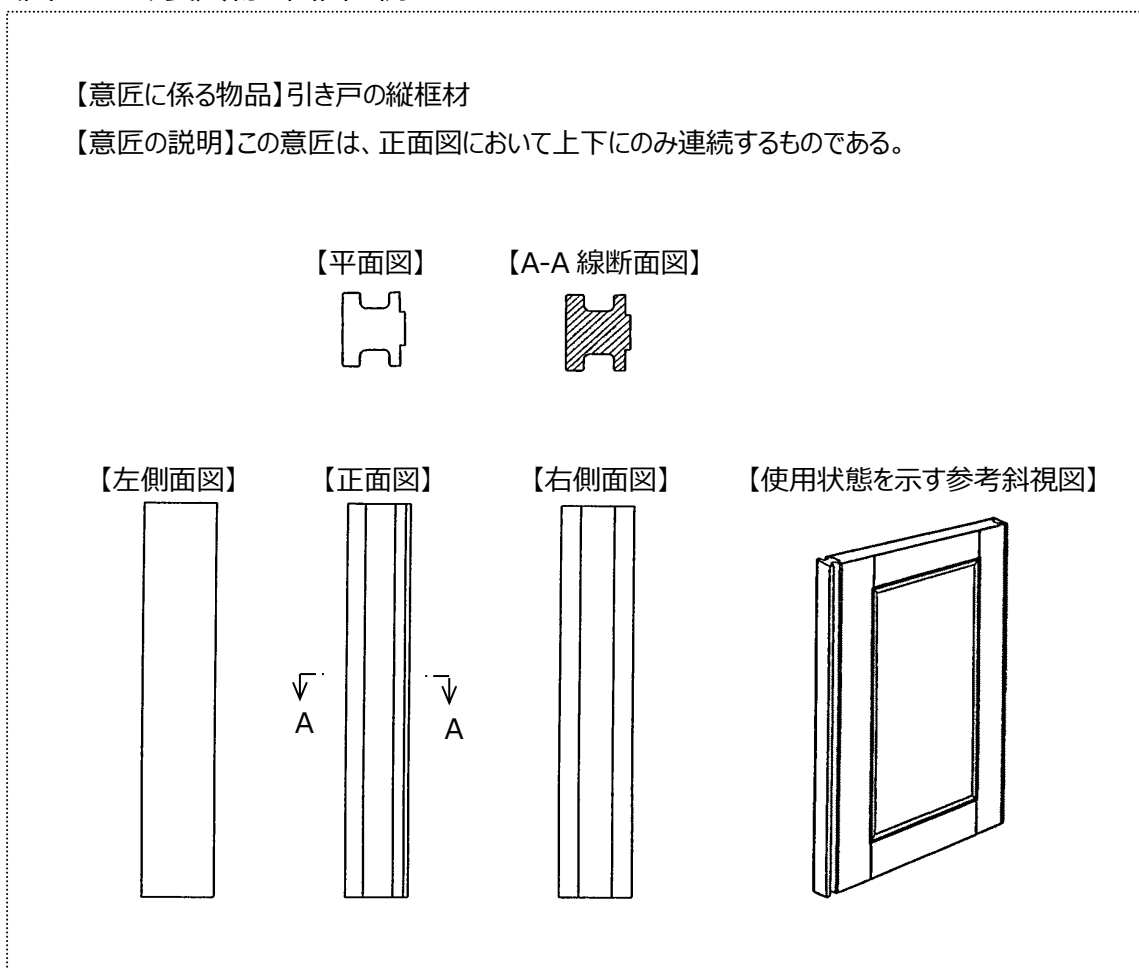
6.1 形状または模様が単に連続する場合

- ①図は、長手方向を適当な長さとして表します。
- ②両端部は、長手方向と直角の方向に直線状に実際に切断したように実線で表します。
- ③以上のように図示する範囲を定め、その範囲が実際の立体物であるかのように、通常の立体物と同じ図法に従って表します。
- ④【意匠の説明】の欄に、「この意匠は、正面図において左右方向にのみ連続する。」等の連続する旨の説明を記載します。

〔図 3.6-1〕長尺物の図面の例



〔図 3.6-2〕長尺物の図面の例

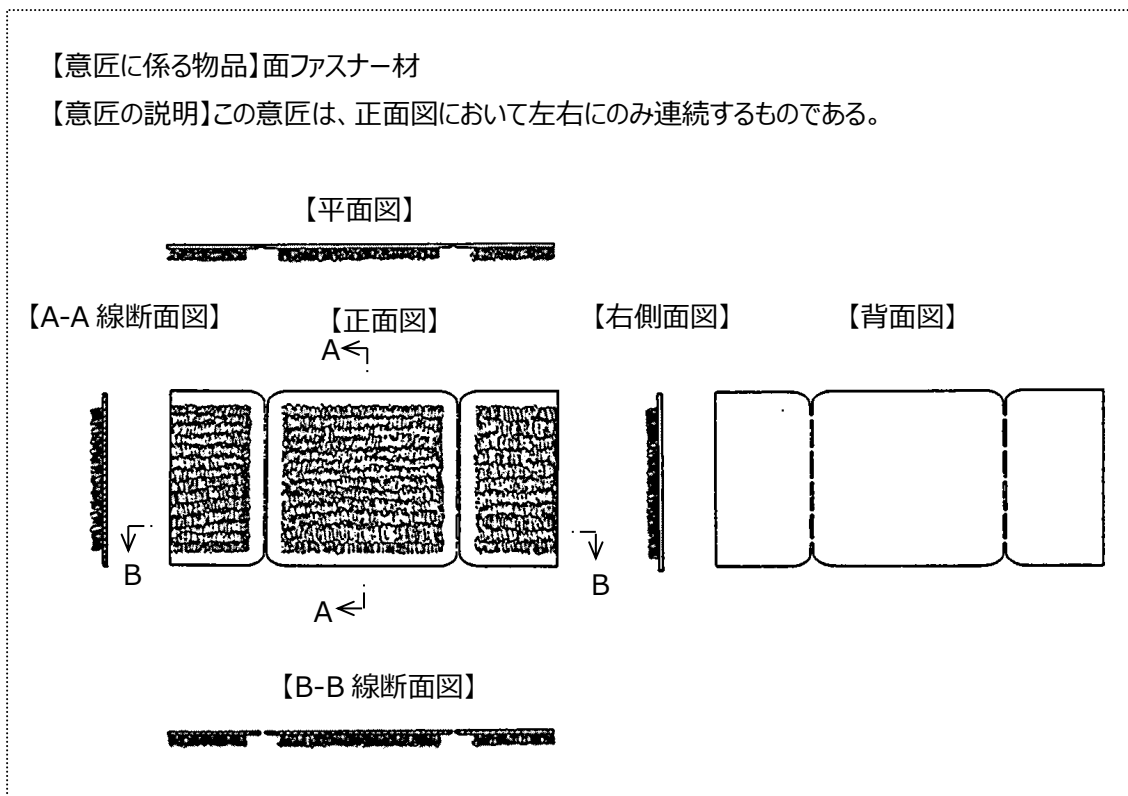


6.2 形状又は模様が繰り返し連続する場合

形状または模様が繰り返し連続する場合は、長手方向（繰り返し連続する方向）の表し方に必要とされる範囲があることが、6.1 の単に連続する場合と異なります。それ以外は6.1と同様です。

長手方向は、繰り返し連続する形状または模様の最小の単位とその繋がり状態がわかる範囲をあらわすこと（少なくとも1単位半から2単位程度が表れていること）が必要です。なお、意匠を理解する上では、繰り返しを多めに表すことが望まれます。

〔図 3.6-3〕形状又は模様が繰り返す長尺物の図面の例（繰り返しの2単位を表した例）



〔図 3.6-4〕形状又は模様が繰り返す長尺物の図面の例（繰り返しの単位を多めに表した例）

